

～ 深草商店街「つながる・ひろがる・深草の輪」 地域連携型買物支援可能性検証事業 ～

地域の諸団体との連携により、100円商店街、交流カフェサロンの高齢者向けメニューの開発、イスづくりのワークショップ等を実施し、地域に密着したひとにやさしい商店街をアピールした。また、高齢者及び子育て世代にアンケートを実施し、買物支援の可能性を検証した。

所在地：京都府京都市伏見区深草直違橋3-379
TEL・FAX：075-643-0336
URL：<http://www.fukakusa-flower.com/>
組合員数：55名
商店街の類型：地域型商店街

商店街の概要と事業を実施した背景

京都府伏見区で大阪と京都を結ぶ本町通り沿いに発展した商店街。約1.3Kmの街区を有し、衣料・雑貨等の物販から飲食・サービス業等55店が軒を並べる。近年は周辺へのスーパーの出店等による影響で売上が減少し、空き店舗が増加するとともに品揃えや業種不足などが課題となっている。

本事業では地域コミュニティの役割向上、ひいては売上増を目指して、買物などの外出が困難な高齢者や子育て層のニーズを調査し、買物支援事業の可能性を検証した。また、商店街への来街機会の少ない高齢者や子育て層に商店街・個店の認知度向上を図り、リピーターの獲得を目的として100円商店街、ワークショップ等を開催した。

実施した事業の概要

①地域連携型買物支援可能性検証事業

地域の高齢者や子育て層に対し、商店街の利用状況や要望事項などについてアンケートを実施し、買物支援事業の可能性を検証した。回答者の中から協力者を選定してモデル的に買物支援事業を行う方向で協議をする予定。

間接的な支援として、高齢者や子育て層が気軽に出かけられる商店街というイメージ作りを狙いとし、来街者がくつろげるベンチ作り、シャッターペインティング等のワークショップを実施し、店頭等に設置した。また、カフェを中心としたコミュニティスペース「ふかふか家」において、お年寄りにやさしいランチメニューを開発。材料は農家の協力を得て地元産の野菜を使用。開発したメニューは広報誌ふかふか家ニュースに載せ集客へつなげた。

②ふかふかさ100円商店街

地元大学や地域団体の協力を得て5月と11月の2回開催し、個店の魅力と地域団体の活動を認知してもらった。会場は商店街のほか商店街に面している地元小学校を借り、アトラクションのスペースを確保した。

5月は、従来はなかったスポーツという要素を取り入れ、Jリーグチームによる子供向けのサッカー教室を併催。ファミリー層の集客を目指したところ参加者60名を含め約4,000名の集客となった。出店数は地域団体13を含めて66店となった。

11月は大学と連携した地域の歴史探訪、和太鼓の演奏、バルーンアート、プリクラカード作り等参加型の企画を盛り込んだ。出店数は地域団体14を含めて88店にのぼり、来場者8,000名を集める賑やかな開催となった。



成果と成功の要因

アンケート調査により、現状は切迫した状況ではないが、近隣在住の高齢者及び子育て層が近い将来、買物支援を必要とする可能性(回答者の3割弱)があることが確認された。本事業を通じて福祉協議会等とのネットワークが形成され、買物支援事業のシステム化を検討する機運が形成されたほか、介護施設の支援者等の協力が得られ、高齢者が車椅子で来街する姿が増えている。また、100円商店街は大勢の来場者で賑わい、商店街の活力と個店の魅力をアピールできた。ワークショップで制作したベンチなどは買物客に好評で、集客に貢献している。

成功の要因の一つとして、子育てネットワーク、福祉協議会、大学などと連携して実施したことにより来場者に楽しんでもらえる環境ができたことがある。二つ目には若手理事が地元団体等との連絡窓口となり連携先のニーズを積極的に把握しイベントに反映させたことが挙げられる。

今後の取り組み

買物支援事業は、少数をモデル的に選定し、受益者負担の方向で検討を行っている。100円商店街、ワークショップ、交流カフェサロンでの高齢者向けランチの開発などを継続して実施することで地域との交流を図り、更なる賑わいの創出を目指していく。資金については自己資金で賄う予定である。